

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100198
法人名	社会福祉法人 寿量会
事業所名	グループホーム 虹の家
訪問調査日	平成 19 年 10 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100198
法人名	社会福祉法人 寿量会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム 虹の家
所在地 (電話番号)	〒861-4125 熊本県熊本市奥古閑町4296番地1 (電話) 096-223-0632
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップいふ
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成 19年 10月 5日

【情報提供票より】(平成19年8月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 9月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.8 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1380円		

(4) 利用者の概要(8月13日 現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	5 名	要介護2	0 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.2 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有明海リハビリテーションクリニック・熊本機能病院・銀座通りクリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前に母体法人の特別養護老人ホーム「天寿園」と、病院・ケアハウスがあり、バス停・郵便局・薬局、さらには200m程先には小学校が位置する。明るくモダンなデザインの建物は、広くゆったりとした居住空間を持ち、入居者は、毎朝登校する子供たちとの挨拶や、ご近所の人と一緒にスーパーの送迎バスで買い物へ出掛けるなど、地域住民としてごく普通の生活が展開されています。又、母体事業所が地域福祉の拠点であり、認知症研修実施施設でもあることから、学習する機会に恵まれた職員は「介護する・される」から「共に生活をする」視点を大切にされた係わりが見られました。また、年間を通じ伝統的な祭事を尊重し、地域社会との関係づくりに力を入れ、住民との交流に積極的な暮らしが支えられています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成18年9月に開設。今回が初めての評価。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	初めての受審を前に、ホーム内研修を実施。サービス評価の意義を職員全員で学習し、話し合いを重ねるなど積極的に取り組み、「日々の仕事が自己満足になっていないか、利用者の満足に繋がっているか」と、振り返り見直すことの大切さを確認する等、さらなるケアの充実を図りたいと意欲的な姿勢が見られました。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議ではホームの現状を知ってもらうことからスタートし、理念や日々の暮らしの様子を写真を交えて報告。また、議題となった「災害時の対応」では、施設内のみの対応ではなく地域の連絡網を検討し、新たに緊急連絡一覧表が作成された。思わぬ出来事でも慌てることなく対応が出来るように工夫された「連絡表」は、的確な連絡・報告のために、伝えるべき事項と手順が示唆され、ホーム状況を明示し、電話機横に掲示するなど、推進会議の成果の一つとなっていました。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 居室前廊下からカウンターには意見箱が設置され、記入するスペースを配慮する対応もありますが、苦情・意見等の投函は現在までみられません。毎月のホームからの便りや状況報告で、家族の不安解消を図り、面会等の来訪時に会話を多くして気持ちを聞き取る姿勢を強化し、ホームの運営に家族の想いを付加する努力が伺えました。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の廃品回収やエコ活動に参加し、EM菌やボカシ作りを実施して夏祭りで販売する等、地域活動が幅広く展開されています。また、毎朝の挨拶で顔見知りになった子供たちの運動会応援に参加したり、地域に伝わる祭りや地域の行事に参加することで、利用者がこれまで培ってきた家族や社会との関係を継続的に支援する取り組みに力が入れられています。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由と自立・共生と共育」を基に「ゆっくり、じっくり、たっぷり」を基本理念に掲げ、経験を積んだ職員がたっぷりとした気持ちでじっくりと考えたケアを入居者に提供し、ゆっくりとした時間を共に過ごしています。時間にとらわれず、住み慣れた地域でのその人らしい暮らしが継続できるよう、利用者の生活を大切にしたい理念となりました。	○	ホーム独自の姿勢としても、理念に基づく基本指針といった形などで、地域密着型サービスであることを鮮明に打ち出すことにより、さらにその意識付けが強くなされるものと思われます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、研修や生活の中で折に触れて理念を説明し、日々のケアで理念の具体化が試みられています。また、共有スペースのガラステーブル天板に理念や運営規定等を置き、誰でも手にとって読み、確認が可能となっています。なお、毎朝ホーム前で登校する小学生への挨拶運動は、地域交流の一端を担っており、理念の具体化に繋がりが見られました。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	スーパーの送迎バスを利用し、近所の人々と買い物を楽しんだり、廃品回収活動やもちつきなどの行事に参加し、地域活動に積極的に参加、交流があります。また、地元で古くから伝わる「あげたかな、さげたかな」と子供たちがお宅訪問する、地域祭りに参加するなど、子供たちとのふれあいも大切にしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修でサービス評価の目的や意義、実施要綱等の理解に努め、全員で自己評価に臨み、努力し、ケアを行っています。しかし、「満足したらこれで終り」との想いもあり、今回の外部評価を受け、改善し今後のケアに活かしてゆきたいとの向上心が伺えました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催される運営推進会議で提案された災害時の対応では、地元の勉強会に参加し、緊急連絡先の一覧表を作成し実践に活かしています。緊急連絡一覧表は、ホームの基本情報に加え、ホームの東西南北が一目でわかるように図説した表を加え、緊急時は的確に場所を伝達できる工夫がみられました。		

グループホーム虹の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、熊本市担当者との交流はないものの、地域包括支援センターからは運営推進会議の構成メンバーとして参加があり、情報の交換が図られています。今後は本庁担当者のみではなく、支所との交流や連携を計ると良いと思われます。	○	地域に根ざすホームとして、地域支援の要でもある熊本市総合支所との交流を計ることが求められます。支所カウンターへ認知症等の知識や情報提供のパンフレットを設置してもらったり、職員へホーム行事への参加を呼びかける等計画し、行政との新しい連携を構築することで、認知症やグループホームの理解促進もさらに向上すると思われます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりを伝える写真付きの手紙が、毎月家族へ報告されたり、FAXでの頻回なやりとりもみられます。利用者本人の直筆年賀状や暑中見舞いの作成支援や手作りのスタンプを作り、心のこもった年賀状を家族へ届ける配慮も見られました。支払いについては家族の税控除を勘案し、医療費、介護費、日用品の項目に分けて出納帳が作成され、家族へ報告する等の配慮も見られました。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	共有スペースに意見箱が設置されるとともに、家族が意見を言いやすいように折に触れて促す努力が見られました。意見箱に投稿はないようですが、職員に直接口頭で利用者や家族から意見があり、常に自由な意見交換が出来る雰囲気があります。運営推進会議への家族の参加もあり、活発な意見が交わされるなど、意欲的な姿勢が見られました。	○	苦情だけでなく、意見や要望・相談など、何気ない会話から家族や利用者の意見等をまとめ、意見の内容と対応結果を利用者や家族に紹介する等、ホーム運営に反映する仕組みがあると、さらによいと思われます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで、異動・離職はなく、職員と入居者との馴染みの関係が構築されています。職員は利用者の家族であり、娘や孫のような存在で、屈託のない会話が繰り広げられていました。母体施設との連携で、安定した人員配置が感じられます。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム内研修では、ケア実施から権利擁護等まで、利用者を取り巻く様々な研修プログラムが見られました。母体施設は認知症研修開催施設でもあり、職員は研修に参加しやすい環境で、外部研修を含めて研修は勤務として参加を勧め、職員の意欲向上に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市グループホーム連絡協議会に参加し、リスクマネジメントや医療、食事等についての情報を交換し、サービスの質の向上に励んでいます。また、他のグループホームへの見学、勉強会等、実務上の経験を出し合うなどの交流でも成果をあげています。		

グループホーム虹の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が、自宅を訪問し、家族や利用者との面接を行い、希望・意向等を尋ね、自宅から継続した支援が取られています。また、利用者とその家族が宿泊体験し、心理的不安を払拭する仕組みも作られています。同法人内の居宅支援事業やデイサービス、ショートステイ等を利用していた利用者は、母体施設からの職員と顔なじみになっており、スムーズなサービス利用となっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者から梅干しやらつきょう作り、家庭の催し事を学ぶことができました」と若い職員の話。また、調査時、帰宅願望のある利用者に対し、ゆっくり、じっくり、たっぷり付き合い、淋しさを共有している職員の姿も見られました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、生活環境・生活歴・家族関係・希望など、今後ホームでの生活を支える為のアセスメントが充分に行われ、詳細な記録も確認できました。行事の参加は強制せず、挨拶運動やお地藏さん参り等も希望者を支援しています。日々のかかわりの中から希望や意向の把握に努め、可能な限り利用者が願う時に実現する個別支援が見られました。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や利用者から思いと意見を聞き、ケアカンファレンスでは、利用者一人ひとりテーマを決め、内容を検討し、施設サービスへの仕組みが構築されています。腰痛を訴える利用者には、安静のみを支援するのではなく、どの程度であれば今までの行動が可能か、検討を重ねた介護計画の作成が見られました。	○	利用者の生活歴、嗜好、趣味等をさらに把握し、より良く暮らすための道具の1つとしてセンター方式の活用が考えられます。センター方式の総てを取り入れるのではなく、必要な個所の部分的な導入でも、利用者の現在・過去・想い・要望を新しく書き込むことで、介護計画の見直しに役立てることが可能と思われます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定例の半年に1度の介護計画見直しの他、月に2回の介護計画を点検し、状態が変化した場合にはその都度、現状に即した計画の作成が行われています。		

グループホーム虹の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の人々に対する通所やショートステイ・訪問介護等の多機能なサービス提供は母体施設が提供し、ホームでは入居者のニーズに答える外出や地域との係わりで支援しています。	○	2年後には認知症対応型通所介護、短期利用共同生活介護の開始を見据え、機能を多様を持ったグループホームとして地域の人々への活用が検討されており、今後期待されます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は家族同行が基本ですが、家族の体調不良等、通院介助が困難な場合には職員が対応する配慮があります。また、入居前から往診を依頼していた利用者にはホームに継続して往診依頼する等、本人や家族の希望に応じ、医療受診の支援があります。在宅時のかかりつけ医との連携を大切に、継続的な医療への配慮がみられました。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者・家族には、母体の介護老人福祉施設「天寿園」への移行を説明し、ホームでの週末ケア・緩和ケア等についての契約は交わされていません。ただ、ホームだけでなく、法人内での医療、介護を含めた対応を行っており、介護老人福祉施設で経験を積んだ職員が、移行までの期間、利用者や家族に不安を抱かせない支援に当たる仕組みが構築されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	同姓の入居者が1組あり、愛情を込めて名前と呼ぶ声掛けは、利用者一人ひとりを大切にする温かさが感じられました。排泄誘導時も、大きな声はなく、失敗があっても騒がずに部屋で誘導する対応が見られました。入浴は衣服の着脱から浴槽まで個別に対応され、プライバシーが確保されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備を手伝う人、歌を歌っている人、編み物をする人、居室に過ごす人など、一人ひとりのペースを大事にし、本人の希望に添った支援がみられました。また、特別な日に限らず、口紅やマニキュアをつけるなど、装いを楽しむ配慮もみられました。		

グループホーム虹の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓には、入居者の手作りランチョンマットが使われ、家庭的な食器が使用されています。お寿司の時には、大きな寿司桶に全体を盛り、好きな物それぞれが選んで食べるなど、見て楽しみ、味わっての喜びを感じる工夫も実施。又、さりげない職員の介助で食事中に入居者が、衣服汚染防止のエプロンを着利用することなく、楽しい食事の時間が提供されていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望者は昼間に集中し、檜風呂と樹脂加工の家庭的な仕様の2つの浴槽で個別対応が行われています。雨の日は1日中入浴タイムという試みもあり、菖蒲湯やローズマリーの香り風呂や、有名温泉地の入浴剤を選ぶ等、入浴への楽しみの工夫も行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、母体施設で利用する体位交換枕や雑巾を作ったり、バス停の草取り等、人のために役立ち、感謝され、喜びを感じる機会が多く作られています。また、小学生がホームに遊びに寄り、一緒に食事をしたり遊んだり、入浴後に髪を乾かしてもらうなど、楽しそうな笑顔を写真で確認することができました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	挨拶運動やお地藏さん参り、新港へのドライブ、梅雨の時期にはDVDのレンタルショップに出かけて見たい映画を探したり、小学校の運動会見学や、高校生と県立美術館へ絵画鑑賞に出かけたりと、幅広い選択肢が準備されています。	○	「家族とのゆっくりした時を楽しんで欲しい」との願いから、全利用者と家族・全職員参加で、阿蘇白雲山荘へ一泊旅行の計画もあり、結果が期待されます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中オープンで、センサーやチャイムも取り付けず、自由に行き来ができます。ガラス部分が多い建物で外部からの視線配慮に生垣を作り、目隠とする配慮があります。職員は常に入居者の行動を把握し、気配り目配りで利用者の安全に努める姿が見受けられました。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルや避難経路の確認が行われています。自立消火訓練を開催し、職員と入居者共に参加実施されているが、入居者にとって少し難しかったとの声も聞かれました。	○	建物が二重ロック、強化ガラス利用となっており、外への避難の手順を把握し、利用者の理解を得るためにも根気強い実地訓練が必要かと思われました。また、災害時に地域の協力を得るために、地域の方に、協力をアピールする事も必要かと思われます。

グループホーム虹の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的な調理は母体施設で行われ、献立は管理栄養士が作成し、食事のバランスは常に確保されており、調理後に届けられています。ホームでは好みの一品を利用者と共に作り添え、ゆとりのある時間とメニュー作りとなっています。水分はそれぞれのコップのサイズで、大まかな水分量を把握し、摂取量はチェックシートで確認されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そここに季節の花が飾られ、風通しが良く、心地よい秋風が感じられました。天窗から光の差し込む具合を見て、利用者を移動させるなど、こまやかな配慮がみられ、笑い声や話し声等の日常生活音は、家庭的な雰囲気を出していました。また職員の制服でない装いが家族と共に暮らしている感覚を与え、心和ませるものでした。	○	ガラス面が多いホームのため、夏場は太陽の日射しを避けて生活する感が否めません。共有スペースには採光の調節ができるようなシェードやカーテンなどを利用し、光への対応を工夫されるとさらによいと思われました。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、馴染みの調度品やソファやカウチ、家族の写真、冷蔵庫など持ち込み、各部屋その人らしい雰囲気となっていました。和、洋、和洋室のタイプと全て異なる部屋の作りで、それぞれ個性のある工夫がみられました。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム虹の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市奥古閑町4296番1
記入者名 (管理者)	村上まゆみ
記入日	平成 19年 8月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	左記の内容を継続していくと共に、理念を具体化することで、より取り組みやすいようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ホームページへの記載も考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	交流会だけでなく地域のために役立つ、清掃や廃品回収など環境作りに関する活動等にも、情報を得て積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ケアハウス入居者やデイサービス利用の方等が気軽に立ち寄ることができるよう声をかけ、お茶を飲んでいただくなどしている。業務の中でも地域の高齢者に対して何かできないか等職員間で話している。	○	散歩中に近所の一人暮らしの方の安否確認を行うなど地域の役に立つ活動ができないか検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価を行い外部評価を受けるにあたり、その意義を勉強会のなかで取り上げ職員の理解を深めた。	○	評価を受けた後、改善すべき点については早急に体操していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年、4月に第1回目を開催しグループホームや理念について説明を行い、日々の暮らしについても紹介をした。6月には防災・防犯をテーマに開催し、今後も2ヶ月に1回のペースで開催していく予定である。	○	推進会議のメンバーの方より頂いた意見を他の職員へも伝え、サービスの質の向上に反映していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ、運営推進会議以外での行き来はあっていない。	○	外出の際に、地域包括支援センターに立ち寄ったり、地域包括支援センターのスタッフの方がグループホームに寄っていただくよう声をかけていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、入居者のうち1名の方がご利用されている。地域福祉権利擁護事業について勉強会で取り上げた。	○	成年後見制度については、今後の勉強会で学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、まずは法の内容について勉強会を開催した。	○	今後は、事例などを通してどのように対応していくかなど、1回だけの勉強会に留まらず定期的に開催していくことで、職員の意識も深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>これまでに苦情はあっていないが、あった場合には、その内容を記録しその背景や対応方法を整理・分析し今後のサービス提供にいかしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>入居者の様子については今後も手紙や写真等で伝えていく。出納帳での管理も継続していくが、日用品と税控除の対象となる医療費等を分けて管理をしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>これまでに苦情はあっていないが、あった場合には、その内容を記録しその背景や対応方法を整理・分析し今後のサービス提供にいかしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催される法人内の園内研修等へ参加するようにしている。また、老人福祉施設研究会や認知症の人と家族の会などの外部の研修にも参加する機会を確保している。今後は認知症介護研修も受講する予定である。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行き、情報を得たり良い点は参考にし取り入れている。また、熊本市のグループホーム連絡協議会に入会し、勉強会等へ参加することでサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の親睦の機会を作る、外部者と接する機会をつくる、悩みなどお互いに話しあえる雰囲気づくりを心掛けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況や研修参加状況などを把握するようにしている。また、個々の得意とすることを活かすことができるような役割を持たせ、意欲を持って仕事ができるように心掛けている。何かをやり遂げた時や努力をしたことについては、声をかけ認めて労っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の申請から実際の入居にいたるまで、ホームを見学していただく、入居前に自宅訪問をするなどし、本人の不安等をきくようにしている。また、事前にケアマネージャーや関わりのあったサービス事業所より情報を得るようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の申請から実際の入居にいたるまで、ホームを見学していただく、入居前に自宅訪問をするなどし、家族の不安等をきくようにしている。また、事前にケアマネージャーや関わりのあったサービス事業所より情報を得るようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けてからすぐに入居することは難しいため、現在の様子やサービスの利用状況を確認しそれに応じた情報を提供したり、関係機関へつなぐようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームへの入居が決まってからも、一度に引越しをするのではなく、荷物を少しずつ搬入したり、家族で過ごす時間を作るなど、本人をはじめ、職員や他の入居者が徐々になじむことができるように、家族と相談しながら入居をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	楽しいことがあれば一緒に笑い楽しみ、悲しいことがあれば泣いたり、一緒に生活する家族のような関係が築けている。若い職員も多く、お茶の出し方などの作法や調理方法を学ぶことも多く、支えあう関係もできつつある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	全てを職員がしてしまうのではなく、家族にも役割をもってもらい、また、入居者の普段の様子も伝えながら、一緒に入居者を支えていくものとして関わっていくように心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を本人や家族から少しずつ時間をかけて把握するようにしている。また、良い関係が続くよう面会の際の言葉掛けには配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたお店や病院などに引き続き通うことで、人や場所との関係が切れないようにしている。また、以前利用されていたデイサービスなどに参加を促すなどしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係や力を上手に活かすことを心掛け、入居者同士が楽しく談話できるような場面をつくるようにしている。(気の合う者同士が部屋を行き来する、一緒に調理をする、一緒に散歩するなど)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでにサービス利用が終了した方はいない。グループホームでの生活が困難となりサービス利用が終了した場合であっても、その後の生活場所への引継ぎを行ったり、将来への不安等を伺い、安心して生活できるよう支援できる旨を入居の際に家族へ説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を話のなかから把握するように努めている。また、以前の暮らしぶりや性格等家族やケアマネージャーより情報を得て、本人の気持ちにできるだけ添うように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	改めて時間を設け話を伺うことはしていないが、一緒に家事や散歩などするなかで、本人より話を伺ったり、ご家族の面会時に話をしたりし把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できること・できないことなどを生活の中で把握し「気づきノート」に記載するようにしている。	○	今後も一日の過ごし方や心身状態等を行動や訴えを観察し把握するように努めていきたい。またより良い生活を送ることができるようケアプラン等に活かしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回、ケースカンファレンスを開催し課題を検討し介護計画を作成している。	○	本人や家族の意向を取り入れるよう心掛けてはいるが、職員主体の介護計画になってしまいがちであるため、家族とともに相談しながら作成していきたい。アセスメントについてもセンター方式を活用するなどより詳細に把握し、介護計画に活かしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケースカンファレンスの中で見直しを行っている。また、個々の状態の変化に応じ、随時、話し合いをし見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個別の記録や「気づきノート」に記載している。また、これまでの生活歴等ライフストーリーなどは個別のファイルにその時々で記載するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設して1年経過しておらず(通所や短期入所等)多機能性はないが、グループホームとして、入居者に対し個別的な支援は行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の好きなことや楽しみとなることを把握し、小学校の協力を得て、子どもとの交流を行っている。また、外出付き添いや話し相手となっていただくボランティアさんに協力を得て支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までにそのような支援をした方はないが、意向や必要性により在宅での生活になる場合などにはケアマネジャーやサービス事業所と話し合い、支援していきたいと考える。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までにそのような支援をした方はないが、意向等により長期的なケアマネジメントが必要な場合は地域包括支援センターと協働し支援していきたいと考える。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に家族と相談しかかりつけ医を決定している。受診など家族での対応が困難なときは付き添い介助をしたり、訪問診療を依頼するなど適切な医療を受けることができるよう医療機関と連携を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の訪問診療を月2回依頼している。利用者の様子を伝え、相談しアドバイスを頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職員であり、バイタルサインチェックや観察をし、申し送りを行うことで、健康状態を常に把握している。また、不在時も連絡がとれる体制にあり、緊急時でも速やかに対応できるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在まで入院された方はいない。	○	入院をされた場合には、これまでの様子や健康状態について医療機関へ情報を提供し、退院の際には病院関係者や家族を交えたカンファレンスを行い、グループホームでの生活へスムーズに移行できるように支援していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化された場合や終末期を迎えられた場合には、住み替えとなる旨を家族へ説明している。	○	本人や家族の気持ちは変化するものであり、状態の変化がある際には随時、家族や本人の意向を把握し、グループホームでのできることやできないことの確認を行い、その方針を全員で共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在まで重度や終末期の方はいない。しかし、看護師を配置し、本人の状態を踏まえ、本人や家族の希望とグループホームができることできないことを見極め、医療と連携を図りながら安心して生活できる体制づくりに努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在まで住み替えをされた方はいない。	○	今後、そのような場合には関係機関と連携を図り、情報交換を十分に行い面会等を実施することでダメージを最小限に食い止めることができるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	人生の先輩であることを忘れず、その方の世界をそのまま受け入れるような対応を心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	動きや会話など、先走りせずゆっくりとした気持ちで何うようにしている。したいことや食べたいものなど、本人の希望を聞きながら行っている。希望を表出しにくい方には、これまでの生活歴や嗜好などの情報を収集し、また家族からの情報も活かし、それを話題にしながら声をかけていくようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催し物の際には、職員側のペースで行ってしまいがちであるが、できる限り一人ひとりのペースを守ることができるよう、日中の職員配置を多くするなど職員も仕事や時間に余裕をもつことができるように心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や髪型については本人や家族の意向・嗜好に配慮している。希望にあわせて(カット・パーマ・染めなど)理美容院の利用を支援している。また、化粧用具を購入し自ら化粧ができるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中で個々のできることでできないことを把握し、それに応じて職員と一緒に調理や片付けを行っている。また、食堂にて顔なじみの人と食事をとる、部屋で家族と一緒に食事をするなど食事を楽しくできる工夫をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	事前に家族より情報を得たり、生活する中で入居者と話をしたりすることで嗜好について把握している。また、それについて制限することなく一緒に買物に行ったりおやつを作ったりするなど楽しみとなるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居前の排泄状況を家族やケアマネージャーより情報を得るようにしている。排泄のあった際にはケース記録やチェック表に残し、排泄パターンの把握に努めている。また、排泄前の言動を観察し、サインをみつけ見逃さないようにすることで、気持ちよく排泄ができるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間を決めることなく本人の意向に添うと共に、入浴確認表を見ながら入浴状況を確認し実施している。また、季節を感じるができるよう菖蒲湯などをおこない、楽しい時間となるよう工夫をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅での睡眠の様子を家族より伺い、また、生活の中から状態や就寝時間を把握し、就寝前に温かい物を飲む・添い寝をするなど個々にあった対応をしている。電気をつける・布団を干すなど環境を整え安心して気持ちよく入眠できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や現在できることを把握し、役割や楽しみとしていかなることができるような場面をつくっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については家族へ説明をし、本人に少額だけ持たせていただき、お菓子などの買物の際には自分で選び支払いをする機会をつくっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など一人ひとりの状態や希望に添って出かけることができるよう、入居者の好きなこと興味があることを知り支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や新年会など季節に応じて外出を行っている。	○	会話の中から、いきたいところなどを把握するように努めてはいるが、実現までには至っていない。ふるさと訪問やお墓参りなども考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1回の職員から家族への手紙に、入居の方から一言書いていただいたり、年賀状と一緒に書くなどしている。電話に関しても制限はしておらず、入居者のプライバシーに配慮し、子機を使用し居室でも話ができるよう声かけをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なじみの方々の訪問には職員・入居者ともに笑顔で出迎え、その時の状況でリビングにて過ごして頂いたり、居室へ案内したりしている。また、お茶などを準備し、ゆっくりくつろいでいただけるよう声かけを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて身体拘束について取り上げ、理解をふかめており、拘束も行っていない。	○	定期的に勉強する機会をつくることで職員の意識を低下させないようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯のための施錠以外は鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認表にて所在確認を行っている。また、来所者が多い時などは特に注意し、様子を観察し安全の確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況に応じてはさみ等の持ち込みはあっている。包丁などはホームで管理をし職員と一緒に使用するようになっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災に関しては職員間で勉強会を行ったり、運営推進会議で取り上げ、そこででた意見を職員へ伝えるなどし、防災に関する意識をたかめるよう努めている。	○	今後、その他の事故に関することを学び、一人ひとりの状態を把握し、事故が発生する危険性について意識を高め、防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、職員同士で確認するよう声かけをしている。救急蘇生などは母体施設の研修で学んでいる。	○	救急蘇生や応急手当などについて全ての職員が学んではおらず、今後、機会を作り学んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルがあり、職員同士で確認するよう声かけをしている。また、定期的ではないが独自で避難訓練を行ったり、日頃より避難経路の確認を職員や入居者も交えて話をしたりしている。	○	災害時に地域の人々の協力を得ることができるためには、どのように働きかけていくか等を検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	環境の変化により起こるリスクについては入居時に、状態の変化により起こり得るリスクについては面会の時に、家族へ説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルサインチェックを行い、また食事摂取量や言動など普段と違う様子がないか観察し、記録に残している。普段と違う様子がある場合には、職員同士で情報を共有し、重度化しないように観察を行い、病院受診など速やかな対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個人ファイルに服薬内容を保管しており、職員全員が確認把握できるようにしている。また、服薬管理箱を作り、日付を記載し飲み忘れがないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の水分摂取量や排便状況を把握し、便秘の際には水分や果物などの摂取を促している。散歩や体操など身体を動かすことは行っているが、便秘予防を意識しての取り組みは行っていない。	○	身体を動かす工夫で便秘予防に取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日中は汚れや臭いがある時に声かけや介助を行っている。夕食後は口腔ケアを徹底しており、義歯の管理が困難な場合には職員で管理をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を個別記録に記載し、一日の量を把握するようにしている。摂取量が少ない場合には、食事の形態を変えたり水分もお茶やジュースにするなど個々にあった対応を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防接種を受けたり、うがいや手洗いの徹底に努めている。また、調理前の手洗いも必ず声をかけ実施している。その他、感染症に対する取り決め(マニュアル)をしており、流行の時期の前に職員同士で見直しを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	月2回台所掃除の日を決め、食品保管庫や冷蔵庫なども含め清掃を行っている。また、布巾などは毎日洗濯し、まな板・包丁などの調理器具・食器類などを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には門扉を設置せず、玄関も開放している。玄関周りには花を植えたり、手作りの表札を飾るなどして出入りしやすい雰囲気づくり努めている。また、季節に応じた飾り(鯉のぼり・クリスマスツリー・門松)をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビングはカーテンや植木などにより不快な音や光がないように配慮している。また、玄関、廊下、リビング、台所などは季節に応じた花を飾るなどの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と居室の間(廊下)にセミパブリックスペースを設けており、気が合う者同士で話ができたり、読書をしたり、音楽を聴くなど、少人数や一人でくつろぐことができるよう本やレコードなどを設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やケアマネージャー等に協力を得て、使い慣れた家具や布団、人形などの生活用品や好きなものを自由に持ち込んでいただき、その方らしい部屋作りを行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全居室とトイレに換気扇が設置してあり、24時間換気を行っている。また、掃除の際には窓を開け、適宜、換気を行っている。室温は、共有の場は温度を確認し調整を行い、個人の居室は巡回時に確認を行っている。	○	エアコンお使用についてのマニュアルや室温確認表などを作成し、快適な生活ができるように心掛けていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関外階段やトイレには手すりやその代わりとなる衝立を設置している。また、入居者の状態に合わせて介護ベッドや家具などを準備し、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。ガラスドアに衝突されないように飾り付けを工夫している。	○	現在のところ、見守りや軽度の介助により入浴ができており、手すりなどの設置はしていない。しかし、浴室は転倒しやすい場所であり、今後、入居者の身体機能の低下にあわせ、滑り止めマットや手すりなどの安全面の確保にも努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自分の居室やトイレが分からない方に対しては、分かるように掲示している。それでも、迷われる方には声をかけできるだけ静かに誘導するように心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲の植物等へ水をあげる、草をとる、デッキに腰掛け花をみる、お茶を飲みながら話をする、漬物をつけるなど日々の生活の中でデッキや植物などを活用している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
	②利用者の2/3くらいの
	③利用者の1/3くらいの
	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
	②数日に1回程度ある
	③たまにある
	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と
	②家族の2/3くらいと
	③家族の1/3くらいと
	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・朝の挨拶運動や地域行事への参加など地域との交流は積極的に取り組んでいます。
- ・生ごみを減らすなどのエコ活動に取り組んでいます。